

《 経済建設常任委員会 行政視察報告書 》

◎日 程 平成29年10月10日（火）～10月12日（木）

◎視察地 鳥取県鳥取市：観光行政について（10/10）
兵庫県豊岡市：豊岡鞆ブランドと空き店舗再生について（10/11）
京都府宮津市：竹資源有効活用プロジェクトについて（10/12）

1日目：観光施策について

1. 視察地 鳥取県鳥取市（10/10）

2. 視察目的

鳥取市は、「鳥取砂丘」・「砂の美術館」等の観光名所をかかえており、観光施策として「新しいにぎわいのあるまちづくり」との目標を掲げ、「すごい！鳥取市」というシテプロモーションで、知名度アップのキャンペーンを行うなど、国際観光・移住施策の取り組みにおいて効果をあげている為、今後における本市の参考にするため、選定した。

3. 事業概要

(1) 鳥取市の観光施策

第10次鳥取市総合計画において、「新しいにぎわいのあるまち」、政策「地域資源を生かしたまちづくり」、施策「滞在型観光」をかかげ取り組んでいる。その中で、①山陰海岸ジオパーク（科学的に特に重要な地質資産を含み、その他の自然遺産文化遺産を結び付けて、保全や教育、ツーリズムに利用しながら地域発展を目指す一種の自然公園）を活かした取り組みの推進、②砂の美術館の充実、③鳥取砂丘の景観保全、④地域観光資源の磨き上げ、⑤魅力ある観光拠点の再整備、⑥観光関連産業の育成、⑦広域観光連携の推進、⑧国際観光の推進に重点をおいて取り組んでいる。

観光入込状況としては、H26年度の入込と比較し、H27年度の入込は、鳥取砂丘で7%増、砂の美術館で3%増と増加傾向にある。



担当部署からスライド説明

(2) 国際観光対策

外国人観光客も多い為、県と連携した国際観光の推進・国際観光客サポートセンターの運営・外国人向け「名探偵コナン 鳥取ミステリーツアー」・外国人観光客用周遊タクシー等にてインバウンド対策も進めている。

(3) 知名度・イメージアップの取り組み

「すごい！鳥取市」キャンペーンとして、“鳥取市の魅力”を市民と共に再発掘・発信し、知名度・イメージアップの取り組みをスタート。市民ワークショップの開催・「公式フォトブック」の発売・鳥取の暮らしを知り体験できるお試し定住「ワーホリ」の取り組み・Y o u T u b eやSNSの活用等により、着実に移住者が増加し、働く世代の移住地としてのニーズが高まっている。PR動画再生回数830,000回、移住者数2006年から2,000人超え、住みたい田舎ランキング2017年第1位を獲得するなど、効果を挙げている。

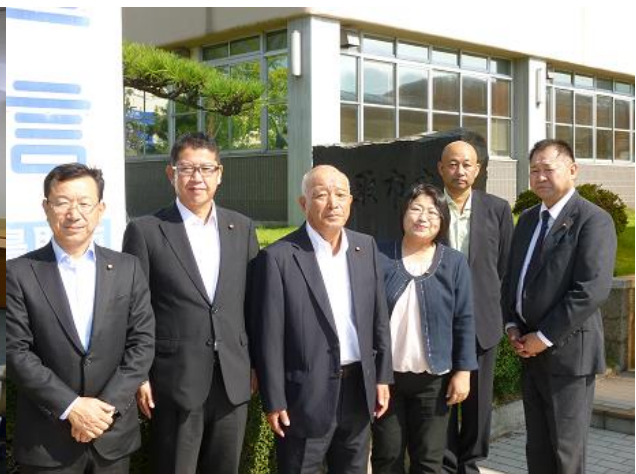
4. 所感

市民参加の取り組みにより、市民が地域の魅力を再発見し、地域愛がより深まり、地元の魅力を語れる人が増え、さらに地元が盛り上がることでメディアも注目し、パブリシティが増えることにも繋がったと思われる。また、体験型のお試し定住では、都会のコンクリートジャングルを離れ、大自然の中で体を使ってのんびり農作業等で働き、ストレスOFFの魅力を体験でき、体験した方の多くの方が移住してきていることが分かった。

こうした、鳥取市の観光施策・定住対策としての市民参加の取り組み、体験型定住策の取り組み、Y o u T u b e等SNSの活用等、本市においても取り入れ、取り組んでいくことが望ましいと感じた。



担当部署より説明を受ける



市庁舎前

2日目：豊岡鞆ブランドと空き店舗再生について

1. 視察地 兵庫県豊岡市(10/11)

2. 視察目的

豊岡市は、日本で最後の野生コウノトリの生息地として知られ、コウノトリの保護・繁殖・共生の事業が行われている。また、江戸時代から始まったかばん産業が、地域ブランド「豊岡鞆」として日本を代表するかばんとして認められ、主要産業として地域を支え、空き店舗活用等も行われている。本市においても、地場産業・商店街の活性化、空き店舗の活用等が課題となっていることから、選定した。

3. 事業概要

(1) かばんのまち豊岡の歴史

円山川に育まれたコリヤナギを利用し、豊岡のかばん産業は江戸時代から始まった。原型は、「柳行李」というものを収納する道具だったが、「ものを運ぶかばん」へと進化させていった。その後、「豊岡鞆」の商標登録を2006年に行い、地域ブランドとして定着。

(2) 「豊岡鞆」の事業継承策

H26年に、かばんの拠点施設を商店街にオープンし、オリジナルブランドのかばんの販売を行っている。しかし、職人が高齢化していることから、人材確保策として、かばんの製造・企画・デザイン・経営を学べるスクールも開講し、Uターン・Iターンの受け入れを強化して、かばんづくりの継承にも努めている。

また、かばん縫製者トレーニングセンターを整備し、かばんメーカーの即戦力となる縫製者を育成している。受講生の進路のほとんどが、市内に就業し、かばん産業の成長に大きく貢献している。そのセンターの2Fにシェアハウスを整備し、市外からの受講生の暮らしも支援している。

(3) 豊岡鞆の認知度アップの施策

メディアでの情報発信や、かばん業界で働く魅力をWEBでのプロモーションやSNSを活用した情報発信に努めている。

(4) 空き店舗活用

商店街の空き店舗を活用する為、家賃補助を行ったり、開業資金の補助を行い、かばん産業の参入を促進し、担い手の支援・商店街や地域の活性化を図っている。

4. 所感

その市独自のブランドを持つということが、いかに、その市の発展への強みとなるかを改めて確認することができた。かばんのまち“豊岡”というブランド力を更に向上させるための施策を展開する中で、かばん産業の後継者の輩出による就労支援や、Iターンプロジェクトにより若者の定住にも繋げている。こうした取り組みにより、

人口減少の歯止めに反映されている。

本市の人口減少に歯止めをかけるためにも、世界文化遺産高山社跡やららん藤岡等、本市の魅力を最大限に活かしていける施策を展開していくことが課題である。



内田委員長より訪問のあいさつ



市庁舎前

3日目：竹資源有効活用プロジェクトについて

1. 視察地 京都府宮津市（10/12）

2. 視察目的

本市の約70%が森林地帯である。森林環境の悪化、放置竹林、荒廃竹林の問題等も懸念されている。

そこで、宮津市における、地域経済力向上に向けた自立循環型経済社会構造へ転換戦略・人口減少を食い止めるための定住促進策として、地域資源である竹を活用したバイオマスタウン構想の取り組みを検証し今後における本市の参考にするため選定した。

3. 事業概要

(1) 自立循環型経済社会構造への転換戦略

宮津市基本構想「みやづビジョン2011」をH23年に策定し、「住んでよし訪れてよしの宮津」を目指し、重点施策として、「自立循環型経済社会構造への転換戦略」をかかげ、バイオマスタウン構想の推進・新産業の創設・農林水産業の6次産業化、地産地商（消）の推進、ものづくり産業の育成等に取り組んでいる。こうした取り組みにより「ひと・もの・かね」が市内にとどまり、市全体としての経済力が高まる。

(2) 竹資源の有効活用

荒廃竹林・放置竹林・里山景観の変化・有害鳥獣被害の多発等の問題の解消が急

務。「竹資源活用型産業創出アクションプログラム」を作成。基本施策は、観光を基軸とした産業振興、環境保全と生活環境の向上。施策の目標は、①竹のカスケード利用によるビジネスモデルを確立、②竹関連企業の立地促進、③竹のブランド化。こうした施策が必要となった背景には、外部からの企業、事業所の立地が見込めない極めて厳しい宮津市の地域経済情勢の中、地域資源を活用した新しい産業の創設と地域雇用の確保が大きな課題となっている。

こうした中で、宮津市には京都府下の約1割を占める竹林が活用されず放置されている。竹の持つ特性（3年～5年で成竹となる成長サイクルの早い循環資源であることや、抗菌・殺菌・脱臭作用などの効果が期待できる有用な成分を含んでいる）を活かすことにより、地域資源である「竹」を有効活用する内発型の新しいビジネスモデルとして確立。

(3) 竹活用によるビジネスモデルの構築

竹の総合利活用が可能となり、1本の竹から、竹表皮・竹チップ・竹粉・竹炭・竹糸等により、新たな収益を生み出すことが可能となり、竹の持つ有効成分及び理化学的付加価値が生み出す高付加価値製品の開発が可能となった。

宮津バイオマスエネルギー製造所が、H23に世界初の施設として完成。放置竹林を活用し発電する新しい産業を起し、雇用の創出・定住に繋げている。

「地域活性化モデルケース」・「地域再生計画」に認定され、全国からもこの取り組みが注目されている。

4. 所感

森林の多い本市としても、地域資源である竹を活用したバイオマスタウン構想の取り組み、放置竹林を活用し発電する産業の創設、新たな雇用創出・人口減少を食い止めるための定住促進策として、宮津市のような取り組みを検討していく必要があると感じた。



担当部署より説明を受ける



市庁舎前

以上のとおり、報告致します。

平成30年3月19日

経済建設常任委員会

委員長 内田 裕美子

副委員長 反町 清

委員 野口 靖

青木 貴俊

冬木 一俊

吉田 達哉